

## 1. 授業の目的と概要

担当者の鉄鋼業研究をもとに、東アジア産業論への視点を養うことを目的とする。

## 2. 学習の到達目標

- ・東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズムを通して、東アジア産業論への広い視点を養うことが目的である。とくに、以下の点に重点を置く。
- ・東アジア産業発展の構図と、その中での鉄鋼業の位置について。
- ・鉄鋼業における生産システムと企業発展の分析視角について。
- ・鉄鋼業における成熟とキャッチアップ、多様な発展経路について。
- ・日本・韓国・中国・台湾鉄鋼業の競争力について。
- ・アセアン諸国における鉄鋼業発展の条件と可能性について。

## 3. 授業の内容・方法と進度予定

以下の内容について、教科書を輪読し、また資料作成の演習を行う形式で進める。

- ・現代鉄鋼業研究の方法
- ・東アジア経済発展と鉄鋼業
- ・東アジア鉄鋼業の生産・貿易構造
- ・日本鉄鋼業の二大グループ化とグローバル展開
- ・日・韓・中・台における鉄鋼一貫企業の比較分析
- ・タイ鉄鋼業における地場熱延企業の発展とその限界
- ・ベトナム鉄鋼業の新局面と政策転換
- ・中国山西省における小規模製鉄の展開と環境問題
- ・東アジア鉄鋼業における序列性・多様性・可変性

## 4. 成績評価方法

出席と報告、討論への参加：40% 期末試験：60%

## 5. 教科書と参考書

川端望『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年。購入すること。

その他、いくつかの論文を指定する。

## 6. 予習と復習について

- ・教科書の内容を理解するためには、相当な予習が必要である。

## 7. その他（使用言語、履修の条件、連絡先、オフィスアワー等）

- ・教員の講義は日本語で行う。受講者によるレジュメと報告は日本語か英語のどちらかでよいが、討論は日本語とする。試験は日本語で出題する。解答は日本語か英語とする。
- ・特論 a とは独立に履修してよいが、特論 a を履修していた方が理解はしやすい。
- ・パソコンで読めるメールアドレスを持っていること。フリーメールで不達等の事故があった場合には、大学アドレス使用を命じるので注意。
- ・事例叙述による実証分析のスタイルである。経済数学は使わないが、通常言語での複雑な思考を必要とする。
- ・受講者は、必ず1回目出席するか、掲示で指定する期限までにメール等で連絡すること。いずれも行わない者は受講を認めない。アドレスは kawabata@econ. tohoku. ac. jp である。
- ・オフィスアワーは授業中に指定する。